政策学部

H180085 3回生

工藤　亜聡

担当紹介文について

　今回、先生の紹介文を読んで先生の研究についての熱意がすごいと言う風に感じたことこの世の中思い通りにはいかないんだなと思い巣こそ恐怖を抱きました。『薄給では、よく吉本興業の若手お笑い芸人が話題にのぼりますが、それ以上に厳しいのが現状です。』

と言うのがとても驚きました。大学教授の世界のことを詳しく知らなかったので余計驚きました。そして、、指導教授のしがらみを断ち切り、自身で研究を続けて行く決意をしました。指導教授から離れることは、専任の職が得られず収入源が断たれること、研究の仲間外れになることを意味します。この文は先生の執念のようなものが感じられてすごいと感じました。日本の文学は真剣に受けようと言う風に感じました。